

シンジェンタグループ広報室

シンジェンタ ジャパン株式会社

〒104-6121

東京都中央区晴海 1-8-1

オフィスタワーX21 階

Tel: 03-6221-1001 Fax: 03-6221-1051

www.syngenta.co.jp

シンジェンタ シード株式会社

〒289-2304

千葉県香取郡多古町高津原向ノ台

401-2

www.syngentaseeds.co.jp



media release

スイス・バーゼル発、2009年2月10日付

英文リリース日本語訳

シンジェンタ、中国安徽アカデミーと共同研究契約を締結

シンジェンタは、中国農業科学安徽アカデミーの安徽イネ研究所 (ARRI) と8年間の共同研究について合意したと発表しました。共同研究プログラムは、新規遺伝子機能の実験室および圃場における試験の実施を中心としており、トウモロコシや大豆などの主要作物の早魃耐性や窒素利用最適化に焦点が当てられています。ARRIは、昨年10月に北京に開設したシンジェンタの新しいバイオテクノロジー研究技術センターと緊密に協力します。

「この共同研究は、当社の研究を加速し、効率および競争力を高めます。」と中国のシンジェンタ バイオテクノロジー部門の責任者であるXun Wangは述べています。「ARRIは、遺伝学、育種および圃場試験における専門性と経験に強みを持っています。」

共同研究プログラムの基本作物は、遺伝子研究に非常に適しているイネです。イネは、遺伝子、分子および作物栽培学上の情報とそのゲノム（全遺伝子情報）がトウモロコシなどの主要作物と近似しています。イネの比較的短期の成長サイクルは、より短期間により多くの試験を完了することを可能にします。

「私たちは、世界的専門知識を持つワールドクラスのアグリビジネス企業、シンジェンタとの共同研究に非常に胸躍らせ、誇りに思っています。私は、シンジェンタとARRIの研究者が緊密に協力し、先端技術の開発と農業への斬新な解決策を提供できると強く信じています。」と安徽農業科学アカデミーの学長であるJianbo Yang氏は、述べています。

この共同研究契約は、シンジェンタと中国の研究者との緊密な関係構築の取り組みの一つです。2007年、シンジェンタは、北京の遺伝学および発生生物学研究所であるthe Institute of Genetics and Developmental Biology (IGDB) とトウモロコシ、大豆、小麦、テンサイおよびサトウキビなどの主要作物に対する新規農業形質の開発について5年間の共同研究契約を締結しました。

1987年創立のARRIは、中国安徽省におけるイネの研究および技術革新に関するトップレベルの研究所です。創立当初よりARRIは、国連開発計画や中国国立自然科学財団などの多くの主要プロジェクトに取り組んでいます

シンジェンタは、“植物のちからを暮らしのなかに“を企業目的として世界 90 カ国以上で事業を展開し、2 万 4,000 人超の社員を擁する世界のリーディングカンパニーの一つです。ワールドクラスの科学、グローバルな事業活動とお客様へコミットメントを通じて、作物の生産性向上、環境の保護および健康と生活の質の向上をサポートしています。さらに詳しい情報は、インターネットwww.syngenta.com（英語）または、www.syngenta.co.jp（日本語）をご覧ください。

将来の見通しに関する記述についての注意事項

本リリースには、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述は、「見込まれています」、「でしょう」、「の予定です」、「潜在的な」、「計画」、「展望」、「推定」、「目的」、「目標」またはその他これに類似した表現により特定されます。そのような将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要素により影響を受けるため、実際の結果と異なる可能性があります。そのようなまたはその他のリスクと不確定性については、シンジェンタが米国証券取引審議会に提出した入手可能な書類をご参照ください。シンジェンタは、実績、前提条件の変化などの要因を反映するための将来の見通しに関するいかなる記述もそれを更新する義務を一切負わないものとします。本リリースの全体または一部は、シンジェンタAGの普通株またはシンジェンタADSの売却もしくは発行を申し出るか、勧誘するものではなく、それらの購入または申込の申し出を勧誘するものでもありません。また、それらの目的のために締結される契約に関してその根拠または拠り所となるものではありません。